

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校評価表作成について変更し

達成度(評価)

- A : 十分達成できている
- B : おおむね達成できている
- C : やや不十分である
- D : 不十分である

学校名	伊万里市立大川内小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携して児童の教育に携わることができた。職員・保護者・児童・地域対象の教育に関するアンケート調査においても、それぞれ高い評価を得ることができた。 ・引き続き、学力向上に向けた指導法の改善を図る必要がある。5年生は県の学習状況調査で県平均値を上回ることができなかつたが、昨年度よりは得点平均が上がっている。児童の実態を分析し、課題を明らかにした上で指導法の改善を図っていく必要がある。 ・いじめの認知、対応について、複数で対応することができた。これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に複数で取り組んでいく必要がある。 ・働き方改革の視点から、職員一人一人に超過勤務を削減する必要性の意識付けはしてきたが、その実現に向けた具体的な取り組み方の工夫を考える必要がある。
2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 ～自ら学び、行動し、やさしい心で共にのびる～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を受けながら教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、地域の「人・もの・こと」と連携し、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・常にすべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、校内研究を軸に、学ぶことの大切さを知り、学ぶことの楽しさを身に付け、学びを深化させようする児童の育成を目指す。 ・家庭や地域、専門機関との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子をしっかりと見取り、複数で対応していく。

4 重点取組内容・成果指標

5 最終評価

(1)共通評価項目		最終評価				
評価項目	重点取組	具体的な取組	達成度(評価)	実施結果	評価	学校関係者評価
●心の教育	○基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、自分の思いや考えを進んで伝えることのできる力の育成	○国及び県の学習状況調査やCRT検査において、全国や県の平均値を上回ることを目指す。 ○学年末のまとめテストで全国標準得点以上を目指す。	A	・校内研修科の国語を中心に、児童が自らの考えを持ち、対話活動を通じて、学びを深めさせている授業改革を取り組む。 ・モジュールや宿題等を工夫し、児童の学力につながる指導を行う。	A	・学校が定めた基準を上回っているので、申し分ない。 ・学級懇談や個人面談で、学力面で一人一人を見てもらっていることを感じている。
	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○90%セント以上の児童が、交流をしているときや、交流後に書く感想で、誰もが交流を持った相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。	A	・継割り活動を行ったり、特別支援学校との交流を行ったりしながら相手を思いやる気持ちや敬う気持ちを育てる。	A	・子どもたちが仲良く帰っている姿をよくにする。 ・アンケート結果から児童が良くできていると感じられる。
	●いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努める。 ○「学校が楽しい」と答える児童90%以上を目指す。	A	・月1回の「心のお天気」アンケートや普段の間わりから、児童の友人関係や悩み等を聞き取ることが多く、話を聞き早期に対応できている。解決に向けては、SSWも交え組織で取り組むことができている。 ・アンケート実施後、気になる児童については聞き取りを行い、連絡会等で情報共有をしていく。 ・教職員に対するアンケートでは、「児童の実態を把握し、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努めている」という意見が「まあまあ思う」「まあまあそう思う」の回答が、100%だったが、児童アンケートでは学校は「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童が93%だったので、児童が楽しいと感じるよう、今後もいじめの早期発見・早期解決に努めていきたい。	A	・いじめ対策委員会においても、学校との情報共有ができる。 ・学校アンケートの結果より、教師がいじめ対策に熱心に取り組んできた、児童が学校を「楽しい」と思っていることが伺われる。
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	A	・学期初めや行事活動ごとに目標を立て、終わりに振り返りをする時間をとり、頑張りを認めると。 ・日頃から児童の頑張りを見つけ、声かけしたり、学級通信に書いたりして伝える。	A	・教師が、それぞれの子ども達の良いところを認めようと努めていることがアンケートから分かる。 ・将来の夢や希望を持つことは難しいかもしれないが、「自分を伸ばそう」と子ども達が思っていることがうれしい。
	○元気なあいさつや温かいことばづかいで交流する児童の育成	○「あいさつができる」と言える児童の割合や地域、保護者の割合も80%以上にする。 ○「言葉づかいで気をつけている」と言える児童の割合や地域、保護者の割合を80%以上にする。	B	・場に応じた言葉遣いやあいさつができるように、全職員で日常的に指導する。 ・学級指導や指導などで、児童の実態に合わせて取り扱い、意識の向上を図り、日常に生かす。	A	・アンケート結果では、保護者や地域からの評価は厳しい。確かに、高学年になるほど、挨拶の声は低くなるが、毎日、見守り隊として接している限りでは、向が感じられる。挨拶だけではなく、色々と話しかけてきててくれる。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	A	・栄養教諭と連携して、低中学生を対象に食育の授業を実施する。 ・保健だより等で、年間を通して、食育を通じて健康づくりを呼びかける。 ・朝食摂取率を95%以上を目指す。	A	・アンケート結果より、どの児童も朝食をしっかりと食べていることが分かる。 ・学校の食育の結果が、県の食育の表彰に結び付いていると評価できる。
	○元気に遊び運動する児童の育成	○アンケートで「外で遊んだり、運動したりするのが好き」と答える児童90%以上を目指す。	A	・なかよしタイム(継割り活動)や体育科の授業を通して運動に親しませながら、体力の向上を図る。	A	・最近は運動することを嫌う子も多いと聞くが、校庭で元気に遊んでいる姿を沢山目にする。 ・屋休みに体育館を使用している児童が多く、体力の向上を図ることが出来ている。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・毎日の超過勤務45時間以上の平均人数が2人に減ったものの、冬季休業の影響も考えられるので、まだみんなで取り組む必要がある。 ・平日は、19時をめざすと、また、月45時間以上の超過勤務がないように呼びかける。 ・タイムマネジメント等について研修を行っていく。	B	・平日の夜や休日に、職員室の明かりがついていることをよく目にする。 ・児童のためにしっかりと準備をしてもらっているのはありがたいが、業務の効率化もしっかりとと考えてほしい。
	○会議や事務の効率化	○会議の超過時間0を目指す。 ○誰もが手軽に必要な文書や授業の教材等を、校務サーバーから取り出せるを感じるように整理する。	A	・職員会議は、引き続き、超過時間0をほぼ実行することができる。 ・年度末にも校務サーバーのデータ整理を行い、来年度の有効活用につなげる。 ・校務分享や教材要領に対する時間削減のために、文書や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。 ・来年度の校務システム導入に伴う研修を行う。	A	・学校で考えて取り組んでもらえていることを支持したい。 ・業務効率化のために使える技術はどんどん取り入れていってほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		最終評価				
評価項目	重点取組	具体的な取組	達成度(評価)	実施結果	評価	学校関係者評価
○ふるさと学習の充実	○地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育活動	○地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上にする。	A	・田んぼの学校、各学年の発達に応じたふるさと学習、見守り隊の方とのふれあい等のよさに気づかせ、感謝の気持ちを育む。	A	・学校が地域を大切に思い、地域学習に取り組んでいることは、児童の姿からも伝わってくる。このまま、地域と学校が連携を続けていくようになってほしい。
	○特別な配慮をする児童に対する個別の支援計画、指導計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮をする児童について共通理解を踏とどめ、専門家の話を通して理解を深める。	A	・特別な配慮をする児童をリストアップし、丁寧な見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画、指導計画について見直しを行なう。	A	・学校が努力をしていることは、アンケート結果から伝わってきた。努力を続けて、職員が一丸となって取り組みを続けてほしい。 ・家庭との連携もよりよく取れるように努力を続けてほしい。
	○危機管理の強化	○交通安全等の指導 ○情報モラルの指導	A	・地域の見守り隊の協力も得ながら交通ルールを守って安全に登下校ができる。「いつも気を付けている」「たいへん気を付けている」100%の児童が回答した。 ・高学年児童に、情報モラル講演を行った。アンケートでSNSのマナーを「守っている」「ない」と98%の児童が回答した。しかし、保護者の評価は低く、家庭との連携が必要だと考えられるが、情報モラル講演の際は感染症の流行により、保護者の参加を見合わせた。	A	・登下校の見守りについては引き続き、協力をていきたい。 ・情報モラルについては、児童を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、大人がついていけない状況がある。大人にこそ学習の機会を作ってほしい。
●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	・児童、学校、家庭、地域の良好な関係が築けている。来年度の開校150周年の取り組みにおいて、学校と家庭が力を合わせ、地域や大川内小学校の素晴らしいを改めて知る機会となるようにし、より一層、地域と学校、家庭との結びつきが強くなるよう努めていく。 ・今年度は学校独自で、学力をみる指標を設けた。基準には達しているが、全国や県の学習状況調査、CRT等をもとに、児童の学力を見取る必要が感じられる。学校の課題としては、国語、算数において「考えたことを書く」ということが挙げられる。全職員で共通理解して改善に取り組む必要がある。 ・いじめの認知、対応について、複数で対応することができている。SCやSSWとも連携して対応することができている。これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に複数で取り組んでいく。 ・「誰のために・何のために働き方改革を行うのか」をしっかり共通認識し、職員の考え方の変化を伴った業務改善につながるよう取り組みを工夫していく。	5 総合評価・次年度への展望				